

令和7年度（2025年度） 第2回横須賀市政策推進・行政評価委員会会議 会議概要

■日 時 令和8年（2026年）1月14日（水）10時00分～12時00分

■場 所 横須賀市消防庁舎3階 消防第2会議室

■出席者 【委員】
中西委員長、
大森委員、小川委員、佐藤委員、菅委員、野村委員、引本委員（オンライン）、
藤枝委員（オンライン）、三田委員
（50音順）
（欠席：塩沢委員）

【事務局】
吉田都市戦略課長、林主査、相澤主任

■傍聴者 なし

■資 料 資料1 政策推進・行政評価委員会名簿
資料2 政策推進・行政評価委員会条例
資料3 第1回会議でいただいたご意見とその回答
資料4 行財政改革方針 改定素案
資料4-2 （参考）行財政改革方針（現方針）
資料5 次期実施計画 全体像
資料6 次期実施計画 数値目標（案）

1 議題 行財政改革方針の改定について

※関係資料：資料3、資料4

1. 行財政改革方針改定の方向性について

(中西委員長)

- ・ 前回の委員会で幅広く意見をいただいているため、今回の資料に盛り込まれていないものもあると思われる。
- ・ それらは決して消えるものではなく、適宜反映するものや情報共有のうえ他で反映を図るもの、あるいは他の計画でカバーしているものなどとして整理されていると理解している。
- ・ 意見が出たもので対応しないものはないという理解でよいか。

(事務局) 吉田課長

- ・ そのとおりである。

(中西委員長)

- ・ 指標については現状の絶対的な数字に加えて、増えたのか減ったのかというトレンドも大事である。
- ・ 増加が施策によるものなのか、元々のトレンドやこれまでの取り組みの成果なのかを見極めるために、直近の現状値だけでなく2、3年分のトレンドが分かる数字があった方がよい。
- ・ 可能かどうかも含めてご検討いただければと思う。

(事務局) 吉田課長

- ・ 承知した。

(藤枝委員)

- ・ 全体について、前回委員会の議論を踏まえ、私を含め各委員の意見を反映し、修正いただいた内容になっている。大筋の内容については大変よくまとまっていると思っているが、その上で2点コメントと提案がある。
- ・ 1点目は指標に関するもので、前回委員会で基本姿勢ごとにアウトカム指標を設定する提案もしたが、原因と結果の関係の説明が難しいことも含めて考えると、今回提示された案のようにアウトプットに近い指標を設定しモニタリングする方針は合理的であり、異論はない。
- ・ その上で、モニタリングをしようと言っている以上、指標の動きを踏まえて次にどうつなげていくかということが重要になるので、本文には各年度の決算資料で示すという記載だけでなく、モニタリングを行っていくというニュアンスを入れ込んでおいてはどうか。

- ・ 具体的には、資料4の「(4) 行財政改革の方向性」に記載している、「4年に一度、内容について見直しを行います」の前に、「この指標値の結果も参照しながら」のように記載してはどうか。
- ・ 2点目は新たな提案で、行財政改革を進めるにあたり、リスクマネジメントの視点を組み込んでどうか。
- ・ 法令違反や情報漏洩などの防御的な意味ではなく、リスク管理を積極的に捉えることで組織の信頼性や住民サービスの質の向上につなげるという視点もあると思っている。
- ・ 例えば、AIやデジタル技術を活用して、情報セキュリティの向上、より丁寧なマニュアル作成、より精度の高い業務チェック体制構築などに取り組むことは行革の論点となり得る。
- ・ 様々なリスクが高まっているという市の認識を背景部分に入れ込むのも良いかもしれないし、「内外のリスクの管理に配慮して」というようなフレーズを本文中に反映すると、リスクマネジメントと行革のリンクを意識していることが表現でき、より良い内容になると考える。

(事務局) 吉田課長

- ・ 1点目の指標に関しては、できるだけアウトカムの指標を設定するよう努めているが、因果関係の明確化が難しいため現状はアウトプット指標を中心にしている。ただ、因果関係が結びつきやすいものについては、できるだけアウトカム指標も取り入れたいと考えている。
- ・ ご提案いただいた指標に関する文章は盛り込んでいきたい。
- ・ 2点目のリスクマネジメントについては、市として情報セキュリティに関する規則があるので、盛り込むことは可能だと考えている。

(引本委員)

- ・ 1点目は、資料4の「(4) 行財政改革の方向性」について、行財政改革を管理・推進していくための体制の記載が不足していると思う。具体的には、責任部署や管理の仕組みについて、内容を入れてもらえると、よりよいのではないかと思う。
- ・ 特に、仕組みについては、「推進にあたっては」の部分の記述が状況把握に留まっているので、指標を基に状況把握し、それを改善・推進していくために議論をして、PDCAサイクルを回していくという仕組みも明記すべきである。
- ・ 2点目は、藤枝委員からも話があったが、リスクマネジメントについては、ガバナンスやコンプライアンスの要素も含めて、ぜひとも盛り込んでいただきたいと思う。

(事務局) 吉田課長

- ・ 1点目については、PDCAを意識することについては前回もご意見をいただいたので、盛り込んでいきたいと考えている。

- ・ 2点目のリスクマネジメントは、藤枝委員とは少し異なる視点で、ガバナンスの部分にも触れていく趣旨だと理解した。記載する場所については、横断的な姿勢のDXの推進のところか、基本姿勢2の組織運営のところになると思うので、検討させていただきたい。

(小川委員)

- ・ 前回申し上げた意見は資料4の12ページ「DXの推進」などに反映されているが、町内会のDXで言えば、今までのコミュニティの力が弱まっているところがあるので、今、連合町内会としてもDXを進めているところである。
- ・ パソコンを持っていない、金銭的余裕がないところもあれば、すでにホームページを作っているところもあるなど、現実的にはコミュニティごとに格差があるので、どうしたらコミュニティの力を全体的に引き上げていくことができるか、ということが重要な課題になっている。
- ・ 例えば、市の職員が直接町内に出向いて指導するような、具体的な人の動きを方針に入れてほしい。

(事務局) 吉田課長

- ・ 小川委員がおっしゃった内容は資料4の13ページ右上に記載している「町内会DXの推進」の取り組みに関わるものである。
- ・ 現在予算編成中のため未確定だが、所管課に意見を伝え、取り組みに盛り込めないか調整していきたい。

(小川委員)

- ・ 以前出席した市の会議で説明を受けたが、どのような形で進んでいるか、なかなか見えにくかった。予算の話だけでなく、職員の「人」の動き、つまり具体的に何をしたのかという成果が見えるようになると、政策を作るときにそこが基本になって動くと思うので、そのあたりがもう少し書かれていると良いと考えている。

(事務局) 吉田課長

- ・ 承知した。

(中西委員長)

- ・ 大きな方針だけでなく、それが具体的にどういうものをより見える形にするようにとの趣旨であるため、その点について工夫を検討していただきたい。

(事務局) 吉田課長

- ・ 検討させていただく。

(中西委員長)

- ・ もう一つは、大きな計画の下にある具体的な計画の方で、実際には担っていることも多いため、そこの連動性についても、もっと明確に示してもよいのではないかと思う。

(菅委員)

- ・ まず、AIやDX、オープンデータの推進については非常に評価しているが、AIについては、データ管理やガバナンスなどの体制整備が現状どの程度進んでいるのか。併せて、管理体制や職員のリテラシー教育、人材育成の現状についても教えてほしい。
- ・ 次に、オープンデータについては、データセットの整備だけでなく実際の活用状況が重要で、閲覧数などのモニタリングから活用度を測ることも必要だと考える。使われていなければ課題があるため、使いやすい提供方法の検討も求められる。
- ・ さらに、他自治体との連携については、情報交換や施策の連携、情報インフラの共有など具体的にどのような方針や取り組みがあるのか教えてほしい。物理的な共有による経費節減も視野に入れ、今後の方針を示してほしい。

(事務局) 吉田課長

- ・ 1点目のリスクヘッジやガバナンスについては、デジタルを所管するデジタルガバメント推進室と、個人情報の取り扱いを管理する総務課市政情報コーナーの2つの所管があり、情報漏洩などが発生した場合はマニュアルと指針に基づいて両課が連携して対応している。
- ・ 2点目のオープンデータについては、閲覧数のモニタリングは行っているが、企業等の活用状況を把握できていないことは大きな課題だと思っている。ただ、使いやすさという観点で言えば、これまでは市のホームページでのみ掲載していたところを、最近、市民団体が運営する「BODIK」にデータを掲載し、検索しやすい環境を整備している。
- ・ 3点目の他自治体との連携については、現時点で方針はない。まだ検討段階ではあるが、例えば、機器の共同購入をすることで、購入コストの削減などができればよいと考えている。

(佐藤委員)

- ・ ふるさと納税について、方針の内容には関係ない部分かもしれないが、返礼品の規定が変更になるという話を聞いている。ふるさと納税は、地域経済の活性化につながると考えているので、市から働きかけをお願いしたい。
- ・ 資料4の7ページに労働力人口の減少という記載があるが、地域企業でも働き手の減少が進んでいる。市内には小規模の企業が多く、DXや生成AIの活用が十分に進んでいない部分があるので、官民連携で、地域経済の活性化も含めて、これらの推進を一緒に進めてほしいと感じている。

(事務局) 吉田課長

- ・ まず、ふるさと納税について、横須賀市では、約2年前からアドバイザーを入れて指導を受けながら取り組んだ結果、寄附額は大きく伸びており、2024年度は個人版で約7億円となっている。規定の変更はできるだけ緩やかで地域に優しい形になるのが望ましいため、その旨は経済部にご意見を伝える。
- ・ 次に、中小企業の労働人口減少については、どの自治体でも同様だが、横須賀市でも約9割が中小企業であり、中小企業が市の経済を支えていることを、職員も十分認識している。
- ・ 中小企業にとってもDXや生成AIの活用は今後必要になってくると考えており、人手不足解消に向けて若い世代の就業を促進するためには、DXなどの情報をいかに若い世代にアウトリーチしていくかということが重要になる。そういった部分の推進は、来年度以降の予算に盛り込んでいきたいと検討しているところなので、これも経済部に伝える。

(大森委員)

- ・ 観測指標について、推進項目の指標が達成・改善されると、それに連動して基本姿勢の指標も達成されていくという理解でよいのか、それとも基本姿勢と推進項目の指標は切り分けて考えるべきものなのか。

(事務局) 吉田課長

- ・ 本来は推進項目の指標の達成が基本姿勢の指標の達成につながるのが望ましいが、因果関係を明確にするのが難しいため、基本姿勢には効果を示す指標を置き、推進項目には取り組みの結果として数値化しやすい指標を配置している。

(大森委員)

- ・ 直近の現状値は記載されているが、今後は目標値も記載されるものと理解してよいか。

(事務局) 吉田課長

- ・ 今回悩んだ点で、前回ご助言もいただき検討した結果、今回はあくまで目標ではなく、現状の立ち位置を把握するためのものとして指標を使いたいと考えている。取り組みを進めても社会経済の変動で数値が大きく変わることがあり、取り組みと結果の因果関係が明確ではないため、目標値として扱うのは現状難しいと考えている。

(大森委員)

- ・ 達成することは正しいし、した方がいいと思うが、一方で、達成できなかったとしても悪いことではない気がする。

- ・ 社会情勢の影響や目標設定の問題もあるかもしれないが、目指す目標があることでPDCAが生まれると思う。現状を見ているだけでは、やる側の改善意欲を引き出すのは難しいのではないかと感じている。
- ・ 現場の仕事を考えると、目指す先があった方が動きやすいし、その結果が良かったのか悪かったのかを踏まえてPDCAを回しやすくなると思う。
- ・ また、人に関する指標では、特に「意識改革」のように定量化しにくい定性的な指標もある。そうした定性的な指標も入れることができればよいのではないかと個人的に思っている。

(中西委員長)

- ・ 私からも関連する部分について確認したいことがあるので、事務局からの回答は、後ほど、まとめてお願いします。

(野村委員)

- ・ 資料4の12ページ「DXの推進」について、小川委員のご意見と共通するが、横須賀市ではWEB広報紙やSNS情報発信、生成AIを活用した24時間相談可能な窓口など、多様なデジタルツールが導入されている一方で、一般市民の活用は十分とは言えない。
- ・ 意識が高い層は情報収集しているが、それ以外の市民にどう普及させ活用してもらうかが課題である。例えば、団地の年配の方と話していると、市の公式LINEを友達追加していない方も多く、もったいないと思っている。
- ・ そういったツールをどのように普及させていくのか、具体的な取り組みをより踏み込んで考えてほしい。

(事務局) 吉田課長

- ・ 周知の部分については前回、小川委員からも指摘があったが、市民に届いていない情報発信は発信していないのと同義であると、首長からも言われており、我々としてもそこは強化していかなければならないと考えている。
- ・ 市としてはDXに関してチャレンジングな取り組みを行っている自負があり、これをぜひ伝えていきたいと思っている。
- ・ ただ、どうすれば情報が届くのかという具体的なアイデアが現状少ないので、今日の場合だけでなく後日でもよいので、そうしたアイデアを教えてもらえればありがたい。
- ・ 例えば、チャレンジングな取り組みを広報でアピールするときに、そうした部分も併せて掲載するなど、多様なチャンネルや方法を引き続き検討する。

(中西委員長)

- ・ 単に情報を出せばよいというものではなく、どうすれば話題となり広まるか、というのは難しい問題だと思う。まずは具体的な意見交換を行うことが大事だと思う。

(三田委員)

- ・ 内容の反映状況については特に異論はない。
- ・ 重なる部分もあるが、規定や取り組みが実際に現場や市民にどれだけ届いているかが分かりづらい部分がある。せっかくこうした取り組みをしているのだから、どうやって可視化し示していくかに今後注力すべきだと感じている。
- ・ 様々な取り組みがあるが、自ら情報を取りに行く人は一部で、それ以外の多くの人にどうやってアプローチしていくかが今後の課題である。
- ・ 例えば、資料8ページの「YOKOSUKA Invention & Good Action アワード」は、職員の取り組みを評価し、市のホームページで紹介しているのだと思うが、こうした取り組みがあることを私も知らなかった。職員のモチベーションにもつながるし、こうした取り組みが基本姿勢にどう入っていくかを考えるきっかけになると思う。
- ・ また、職員の活動内容や想いを知るための広報紙などがあってもよいと思う。既存の広報物や LINE のイベント配信では、イベントの開催は知ることができても、それを実施している人や目的までは知り得ない。「人」にフォーカスすることで、自分事として感じてもらえるような伝え方をもっと取り入れてもよいと考えている。

(事務局) 吉田課長

- ・ この場にいる委員の皆さんが知らないということは、ほとんど伝わっていないのだろうと感じている。
- ・ 例えば、先ほどの「YOKOSUKA Invention & Good Action アワード」は広報紙でも紹介したが、それでも十分届いていないことを痛感した。
- ・ 三田委員がおっしゃったように「人」にフォーカスするといった工夫や、媒体・内容を含めて広報部門と連携し、どうすれば市民の興味を引けるかを改めて検討する必要がある。

(中西委員長)

- ・ 発信方法の難しさという先ほどのご意見と連動する内容だったが、色々な方法を、アイデアも含めて出し続けることも大事だと思う。

(中西委員長)

- ・ 「(3) 位置づけ」について、行政計画の体系は非常に複雑になっていると私は認識しており、それが具体的な目標値の設定と密接に関連していると思っている。
- ・ 「分野別未来像」というものは、実施計画だけでなく、他の部門の計画にも、同じようなことが結構色々なところで書かれている。
- ・ より現場に近い計画では、具体的な目標値や達成目標にできるようなものが必要になるが、一方で、抽象度が高い計画では観測指標的なものになってい

くと理解している。

- ・ このため、実はたくさんある部門別計画の存在を前提に考え、それらに対しても物申していくことが大事だと思っている。
- ・ 指標は分野別計画の一部を抽出しているため、分野別計画に対して具体的な目標設定を促すことが、大森委員の指摘への対応になると考えており、そうしてもらいたい。
- ・ できれば、この位置付けの図に多数の部門別計画の存在を示唆する表現を加えることも検討してほしい。
- ・ また、「(4) 行財政改革の方向性」の文言について、見直しだけで終わらず、見直し結果が実施計画や分野別計画にフィードバックされ、改定時に反映されることを明記するとより良いと考えている。
- ・ 全体として多くの下位計画が存在しており、それらとの連動性を高め、関係が見えるよう整理されることが望ましい。

(小川委員)

- ・ 健康面で言えば、今、市立の病院が2か所ある。市ではなく、独自の組織が運営しているので難しいのかもしれないが、例えば、より市民に開放され、市民が利用しやすい病院のようなことを指標にできないのか。
- ・ 例えば、共済会ではDXが進み、市民に開放するような形で色々な講座を開いたりしているので、そういった意味での病院の位置付けみたいなものが指標にあるとよいと思った。

(事務局) 吉田課長

- ・ 今回の議論のテーマは主に行財政改革の視点を対象としている。
- ・ 実際に取り組みを進めていくための計画である「実施計画」を、両輪で作成しているところである。
- ・ 実施計画にも指標を設定するので、小川委員からのご指摘について、反映できるかどうかも含めて考える。

(中西委員長)

- ・ 今回の行財政改革方針とは別に分野別未来像があり、その中に健康分野の記述があると思うので、そちらに反映させる形になるかもしれないが、所管する部局と繋いでいただきたい。
- ・ 分野別未来像にかかる計画は部局で作成しているのか。

(事務局) 吉田課長

- ・ 都市マスタープランなどは各部局が作成しているが、4年間の取り組みをまとめた計画は現在、都市戦略課で作成中である。

(中西委員長)

- ・ 庁内で協議しながら進めているということか。

(事務局) 吉田課長

- ・ そのとおりである。

(中西委員長)

- ・ それでは、これで議題については終了とさせていただきます。

(事務局) 吉田課長

- ・ 委員長および委員の皆さまに相談したい。
- ・ これから、この「行財政改革方針」を固めていくにあたり、本日皆さまからいただいたご意見を可能な限り反映したいと考えている。
- ・ 慎重に検討を進めたいが、スケジュール上、今月中に案を確定しなければならず、委員会としては本日が2回目となるため、意見の反映や内容の最終調整を委員長と事務局に一任させていただきたいので、その点についてお諮りしたい。

(中西委員長)

- ・ 責任は重いが、なるべく委員の皆さまの意向を汲んだものとしたい。
- ・ 事務局は、今回の回答の中でも盛り込むべきところは盛り込むことを考えているし、そうでないものも捨て置くのではなく、他に繋げて生かすという形で考えていると思うので、事務局の提案のとおりとさせていただきたいが、いかがか。

(全委員)

- ・ 同意

(中西委員長)

- ・ それでは、そのように進めさせていただきます。

2 報告 次期実施計画の数値目標案について

※関係資料：資料5、資料6

(中西委員長)

- ・ 報告ではあるものの、今後の計画の活用方法についてのような話もあるかもしれないので、コメントがあればお願いします。
- ・ まず私から、資料6について、数値目標は単に達成の可否だけで評価するのではなく、トレンドを含めて確認し、達成した場合には効率よくできたのか、達成できなかった場合は原因を分析し、フィードバックして次に活かすことで、初めて目標が生きると思うが、いかがか。

(事務局) 吉田課長

- ・ 指標の右側に、関連する横須賀市が持っている分野別計画を記載しているが、この分野別計画から拾っていく形で指標を選定している。
- ・ 実施計画の数値目標は、各分野別計画の中で数値目標として位置付けられているもので、基本的にはこれらの数値目標を見ながら PDCA サイクルを回す形となっている。
- ・ 大森委員、中西委員長もおっしゃっていたとおり、指標の上昇や下降だけで判断するのではなく、指標の在り方や因果関係、適正性も含めて計画の中で評価することとしている。
- ・ 実施計画は各分野別計画の指標を取りまとめた上位計画として位置付けているので、結果的には、PDCA は下位計画の中で回っていく構造になっている。

(中西委員長)

- ・ 分野別計画との整合性を考えると、その使い方は適切だと思うが、一方で、分野別計画にはもっと多くの数値目標が存在すると思われるが、いかがか。

(事務局) 吉田課長

- ・ そのとおりである。

(中西委員長)

- ・ その中から、実施計画の柱に即した指標を選んでいくということか。

(事務局) 吉田課長

- ・ そのとおりである。

(中西委員長)

- ・ 逆に言えば、分野別計画にはさらに多くの指標があり、そちらでより具体的な目標も設定されているはずだと思うが、いかがか。

(事務局) 吉田課長

- ・ そのとおりである。

(中西委員長)

- ・ 計画ごとに作り方が異なるため、一概には言えない部分もあるが、そういった点を前提に見てほしい、ということだと理解した。

(小川委員)

- ・ 「子育て・教育環境の再興」に関連して、現在の小学生や中学生は地域活動をほとんど知らず、地域での動きも把握していない現状がある。連合町内会としては、今月、各連町会長と教育委員会の指導係を招き、教育の実情を地域として把握したいと考えている。学校だけでは解決できない問題が多いため、地域と学校がどのように関わっていきけるかを模索している。
- ・ 例えば、働き方改革の影響でクラブ活動が問題となっているが、教育の課題を学校内だけで完結させず、地域にも波及させて解決を図る仕組みが指標に含まれると良い。
- ・ 最終的には、子どもたちが地域に残り、地域の担い手になってほしいという思いがあり、その方向性が計画に反映されることを望んでいる。

(事務局) 吉田課長

- ・ 学校と地域との連携に関しては、スクールコミュニティの取り組みの中で世代間交流を小学校区で進めていることや、教育委員会との関わりでは学校運営協議会もある。

(小川委員)

- ・ 学校単体ではなく、市全体で大方針を策定し、教育委員会と地域が連携し、地域差なく、子どもたちが平等に横須賀市内で過ごせるような方針ができないかと思っている。

(事務局) 吉田課長

- ・ 部局と検討させていただく。

(中西委員長)

- ・ 資料にある分野別計画を見ると「こども未来プラン」があるが、そこに「地域で育てる子育て」のようなことが書かれているかどうかを確認してほしい。
- ・ この指標に限らず、関連する計画もチェックしていただければと思う。

(大森委員)

- ・ 「健康と福祉のまちの再興」という文脈では、高齢者施策に目が行きがちだ

が、20年後、30年後の社会保障費や医療費を考えると、健康な人が引き続き健康であることの重要性が意外と先送りされがちであり、並行して取り組む必要があると思う。

- ・ スポーツが持つ力は素晴らしいと思っているので、まちづくりの方針が「ワクワク」で止まっているのはもったいない。運動する人が増えれば福祉にも繋がっていくので、例えば運動実施率を指標として捉えるのは良いのではないか。
- ・ 特に30代から50代くらいで、子育てや仕事でスポーツをしなくなってくる人の運動実施率が、計画のどこかに入っていればよいと思う。

(事務局) 吉田課長

- ・ 数値を取れるかどうかも含めて検討したい。

(引本委員)

- ・ 柱4「安全・安心でずっと住み続けたいまち」について提案がある。横須賀市のフレーズ「誰も一人にさせないまち」が好きで、「誰も」の「誰」に注目している。
- ・ 現在の柱全体を見渡すと、外国人、障害者、性的マイノリティなどが包括されているか不明瞭で、これらの方々に関連する政策を中柱として設け、数値目標として紐づける視点を持つことが望ましいと考えている。
- ・ この次期実施計画を見て、すべての市民が「私も横須賀市の市民なんだ」と思えるようなものになることを期待している。

(中西委員長)

- ・ 今からどれだけ変更できるかというのはあるが、未来像についてのご意見だったが、いかがか。

(事務局) 吉田課長

- ・ 実施計画の大柱は、10個ある未来像の中から、この4年間で、特に重点的に取り組むものを抽出して、現在の5本の柱として挙げている。
- ・ 柱の数値目標としては位置付けていないが、引本委員がおっしゃったLGBT、外国人、障害者の取り組みは柱2に入っている。
- ・ その取り組みは、ここでは詳細を示せないが、ご理解いただきたい。

(中西委員長)

- ・ 横須賀市全体としては10の未来像が示されている。
- ・ ただし、それらが主要な柱として十分強調されているかどうか、という点はあるかと思うが、引本委員いかがか。

(引本委員)

- ・ 市に人権を担当する部署が存在することは把握しているが、それを大きな柱に、どのように位置付けているかは市民も注目していると思う。
- ・ 柱の中にしっかりと反映されることが重要であり、その点は難しいことも承知しているが、意見として伝えたい。

(中西委員長)

- ・ 重点的なものについて、色々なご意見があると思いますので、ご検討いただければと思います。

(佐藤委員)

- ・ 柱3の経済・産業の指標に雇用人員があるが、商工会議所は横須賀市と一緒に創業支援の取り組みに力を入れており、小規模創業を通じて地域事業者を増やし、経済活性化を図っているため、可能であれば事業所数などの数値も指標に加えてほしい。

(事務局) 吉田課長

- ・ 検討させていただく。

(野村委員)

- ・ 柱1「子育て・教育環境の再興」の数値目標のうち、待機児童数は未就学児が対象と思われるが、社会的に不登校の問題が重要となっている。
- ・ 調査は難しいかもしれないが、不登校の人数を指標として把握し、その中で民間学校や居場所のある子どもの数も含めて示すことが望ましい。
- ・ 不登校の問題に、より深く切り込むべきと考えている。

(事務局) 吉田課長

- ・ 不登校の問題は、今後4年間で注力して取り組む課題の一つと捉えており、ご指摘のように不登校の数値を設定できるかどうか、考えてみたいと思う。

(中西委員長)

- ・ 指標として載るか否かだけでなく、「教育振興基本計画」や「こども未来プラン」などの計画に取り組みが適切に位置付けられているかどうかを改めて確認する必要がある。

(三田委員)

- ・ 柱2の「暮らしやすいと感じる人の割合」について、その「暮らしやすさ」は人によって異なると思われるが、この指標の具体的な定義や数値化の方法について設定されているものがあるかどうか確認したい。

(事務局) 吉田課長

- ・ 現在、市民へのアンケートでは、無作為抽出した対象者に対し、「暮らしやすい」「どちらかという暮らしやすい」「どちらともいえない」「どちらかという暮らしにくい」「暮らしにくい」の5段階で回答を求め、その後に理由を聞く構成となっている。
- ・ アンケート結果を分析し、クロス集計すれば定義付けができるかもしれないが、現状では具体的な定義付けは行っていない。

(三田委員)

- ・ 大項目としての暮らしやすさをオープンに聞いているということか。

(事務局) 吉田課長

- ・ そのとおりである。

(三田委員)

- ・ 柱4の住宅関係の項目について、市内の空き家率など、空き家の実態が数値としてどこかに含まれているか確認したい。
- ・ また、空き家の有効活用が可能であれば、その状況を数値化・調査して示すことが分かりやすいと考えている。

(事務局) 吉田課長

- ・ 空き家率の数値は、国の調査が5年に一度あり、その数値を使用して出している。
- ・ 現状、柱4は「安全・安心」をテーマにしており、防災に特化した内容になっている。空き家については老朽化による公衆衛生上の問題もあるが、この柱の視点とは少し異なると考えている。

(三田委員)

- ・ 防災のみならず、防犯の観点からも空き家が注目されているため、関連する指標として含まれるのではないかと感じている。

(事務局) 吉田課長

- ・ 横須賀市は今、防災に注力しているため、防災に特化した柱として柱4を新設した。本来であれば、防犯の取り組みなどと一緒になることが普通だとは思いますが、今回はあえて防災に絞った形で設定している。

(中西委員長)

- ・ 観測指標の場合と、大きな目標を掲げる指標は区別されており、ここに載っていない重要な指標が多数存在することを踏まえ、柱に即した指標を抽出していると理解している。

- ・ 空き家の問題は社会的な課題であり、増加傾向にある中で、市単独の取り組みで数値目標を設定し減らすことは難しいと感じる。
- ・ 一方で、実態把握の指標としては非常に重要である。

(管委員)

- ・ 健康寿命の指標について、少子高齢化や医療・福祉負担の増加に対し、若い世代が運動など健康づくりに取り組む機会が限られている現状を感じている。負担など色々あるのか、ジムに行っても若い人が少ない。
- ・ 健康促進の取り組みを数量的に把握し、課題を抽出して健康推進に反映することが重要と考える。健康寿命という結果だけでなく、その過程にある取り組みの指標も必要ではないかと思う。

(事務局) 吉田課長

- ・ 委員がおっしゃる取り組みを把握するのは難しい面があるため、その代わりに柱2の4番目に「地域活動への参加・参画」の指標を設定している。
- ・ 運動の前に、人と会うこと、外出することが、まず第一歩という福祉の観点から設定している。

(管委員)

- ・ 民間のジムでは、運動後に入る浴室やサウナで話す機会もあり、これも地域のつながりだと思っている。
- ・ こうした活動の数字は比較的把握しやすいのではないかと考えている。

(事務局) 吉田課長

- ・ 部局と相談させていただく。

(中西委員長)

- ・ 報告ではあったが、皆さんの意見を考慮する余地はあると思う。
- ・ また、関連部局に積極的に意見を伝えていくことが大事だと思うので、そのように対応してほしい。

(事務局) 吉田課長

- ・ 承知した。

※後日、追加のご意見

(引本委員)

- ・ 広報について、個人的にはこのような市の計画や進捗のすべてを発信し、市民に届けることには限界があると思っている。
必要なのは「情報がほしい人・届いてほしい人に届けられる整理をしておくこと」と、「広く伝えるなら端的に明快に伝えること」だと思っている。

- 前者であれば、ウェブサイトのサイトマップ（構造）を再検討や、サイト内検索でヒットするような単語の登録等があるかと思う。
後者であれば、例えば広報よこすかといった市の広報物で取り組みの進捗のダイジェスト版を簡潔に1ページ掲載するという方法もあるかと思う。
ご検討いただきたい。

以上